

19. リニア中央新幹線の東京・大阪間の早期全線同時開業について

近畿部会提出
説明担当 葛城市

リニア中央新幹線は、東京・名古屋・大阪間の時間距離を大幅に短縮し、関東、中部、近畿の各地域間の交流・連携を一層強化し、わが国の新たな国土の大動脈として、経済社会を支え、東京・大阪間の二重系統化による災害に強い国土の形成、ゆとりある生活の実現に大きく貢献するとともに、内陸部における発展を促進する極めて重要な社会基盤です。

この国家的プロジェクトであるリニア中央新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づく交通政策審議会への諮問・答申を経て、平成23年5月に整備計画が決定され、早期着工に向け多くの国民の期待が高まっているところであります。現在、示されている計画案によれば、東京・名古屋間は2027年（平成39年）の開業、また、名古屋・大阪間は2045年（平成57年）開業の想定がされています。

しかしながら、東京・大阪間の全線が開通されてこそ、それぞれの各都市間で中枢機能の役割を分担し、経済的効果が得られるものであります。こうしたことから、近畿圏においても国の整備計画に基づき早期に計画が実行されることは、地域の発展・振興に大きく寄与するものです。

よって、リニア中央新幹線の東京・大阪間の早期全線同時開業を推進するための諸施策に着手されるよう強く要望します。